

資料 2
大田区基本構想審議会
第2専門部会
平成19年10月16日

大田区 基本構想審議会 第二部会 資料

第1回

平成19年10月16日(火)



目次

第二部会の役割	…	1
第1回部会の論点	…	2
【テーマ1】	…	3
区民の健康をどう支えるか		
【テーマ2】	…	8
高齢者が安心して暮らしていくための方策とは?		
【テーマ3】	…	14
障害者が自立して暮らしていくための方策とは?		



第二部会の役割

- 以下の3つの論点について検討
 - 誰もが元気でいきいき暮らせるまちとは、どのようなものか
 - 子育てしやすいまち、未来を担う子どもたちの健やかなる成長を支えるまちとは、どのようなものか
 - 生涯にわたり学習し、地域に生きがいと居場所を持てるまちとは、どのようなものか
- 基本構想に盛り込むべき将来像、方向性などを提案
- 工程については別紙参照



第1回部会の論点

「誰もが元気でいきいき暮らせるまちとは、どのようなものか」

【テーマ1】


区民の健康をどう支えるか？

【テーマ2】

高齢者が安心して暮らしていくための方策とは？

【テーマ3】

障害者が自立して暮らしていくための方策とは？



【テーマ1】

区民の健康をどう支えるか？

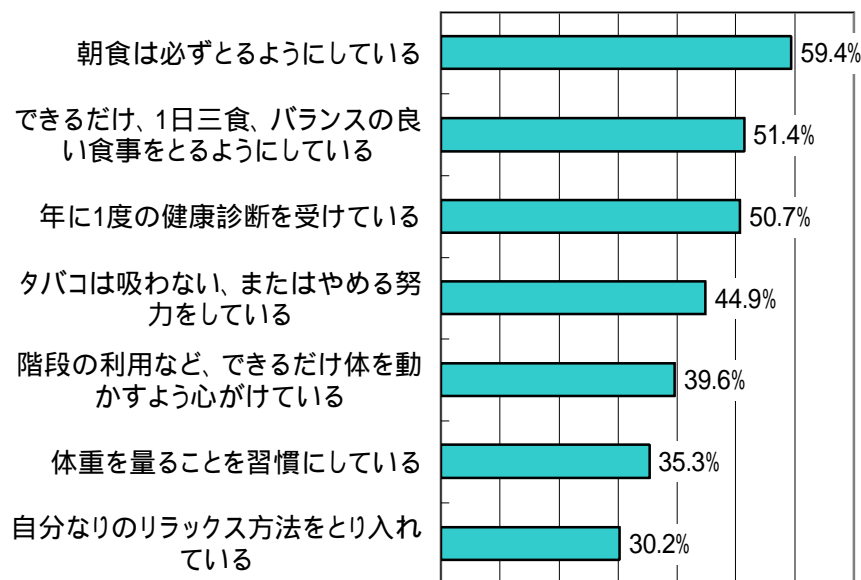
【テーマ1】健康

【現状】

平成17年の死亡者は5,187人で、死因別では悪性新生物が32.6%、心疾患が14.2%、脳血管疾患が12.1%と、生活習慣病の占める割合は高い。

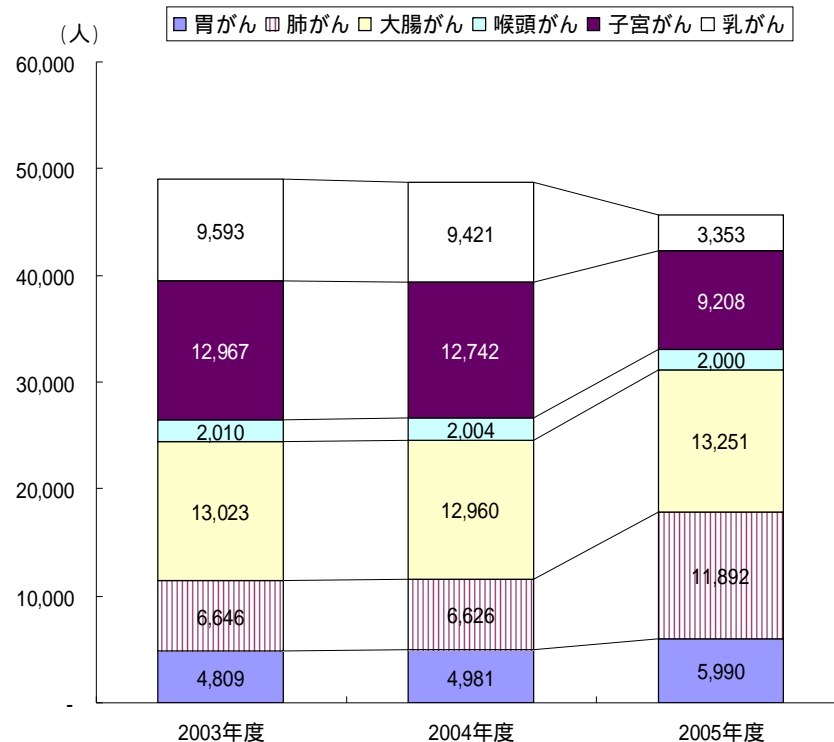
区民の健康に対する配慮としては、朝食をとる、食事のバランス、健康診断の受診が上位を占める。生活習慣病健診受診者数は2003年度の4万5,993人から2005年度には6万880人へと増加した。癌検診受診者では、胃がん、肺がん、大腸がん受診者が増加している。

健康のために気をつけていること



(資料)「平成18年度大田区政に関する世論調査」

がん検診受診者数の推移



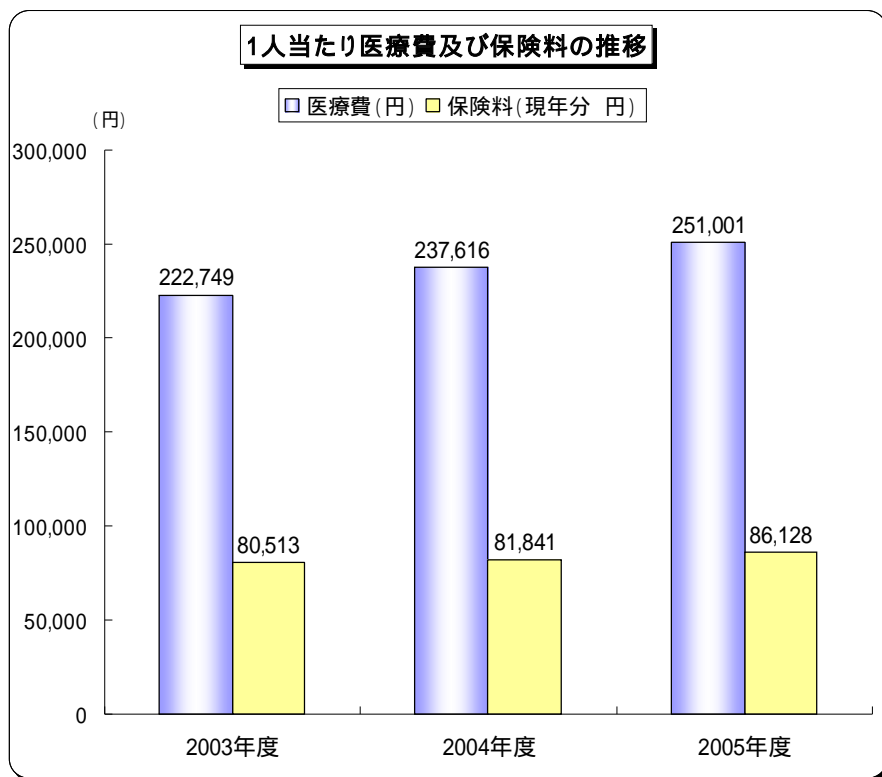
【テーマ1】健康

【現状】

1人当りの医療費および保険料は増加傾向にあり、医療費は2003年度の22万2,749円から2005年度には25万1,001円に増加している。

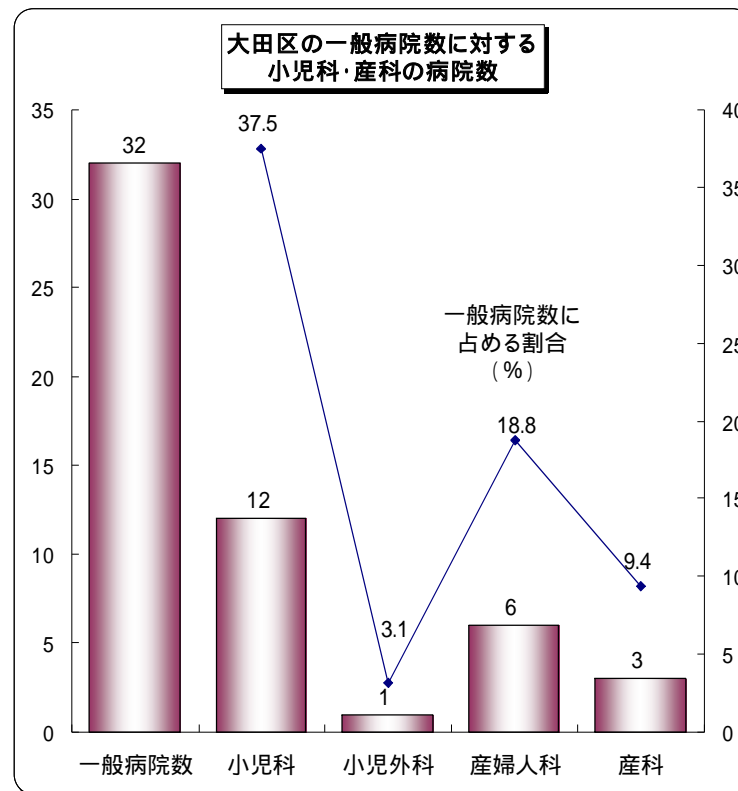
人口1万人当りの医療施設数は9.25カ所で23区内15位、医療施設病床数は86.0床で同12位である。

区内の一般病院数32か所に対して、少子化対策にとって欠かせない産科があるのは約3か所(9.4%)である。



保険料は老人保健対象者も含んだ数字

(資料)「大田区の数字」(大田区)より作成



(資料)「東京都の医療施設」(東京都2004年)より作成

【テーマ1】健康

【現状の施策にみる方向性】

「健康大田21」では、乳幼児期から高齢期までの一貫した健康づくりを推進するために、国の「健康日本21」で設定された9分野において、以下のような21の重点課題を提案した(健康大田アクション21)。平成22年までに、課題ごとに設定された行動目標の達成を目指す。

うつ病が10人に1人、自殺者が全国で3万人を超えるという環境を鑑み、大田区でも「こころの健康づくり支援」に注力している。


分野	重点課題
栄養・食生活	1.適正体重を維持する区民を増やす
	2.朝食を欠食する区民を減らす
	3.栄養成分表示を参考にする区民を増やす
身体活動・運動	4.日常生活のなかで運動する区民を増やす
	5.地域活動(運動グループ)に参加する区民を増やす
休養・こころの健康づくり	6.最近1か月でストレスを感じた区民を減らす
	7.睡眠を十分にとれていない区民を減らす
たばこ	8.未成年者の喫煙をなくす
	9.妊婦の喫煙をなくす
アルコール	10.アルコールの健康への影響、適性飲酒量を認識し、実践する区民を増やす
	11.未成年者の飲酒をなくす
歯の健康	12.歯と歯肉の観察を習慣化する区民を増やす
	13.歯間部清掃器具を使うか、ていねいな歯磨きをする区民を増やす
	14.定期的に歯の保健管理をしている区民を増やす
糖尿病	15.健診受診者のHbA1c(過去1ヶ月間の血糖レベルの指標)の値が正常範囲の区民を増やす
	16.学齢期の肥満者を減らす
	17.健診で要指導・要医療とされた場合、指導を受ける区民を増やす
循環器病	18.成人の高血圧を減らす
	19.成人の高脂血症を減らす
がん	20.「がん予防12か条」の内容を認知し、実践する区民を増やす
	21.精密検査受診者を増やす



健康づくりにおいて、なにを目指すか

将来のあるべきまちの姿とは

施策の方向性はどうあるべきか



【テーマ2】

高齢者が安心して暮らしていくための
方策とは？

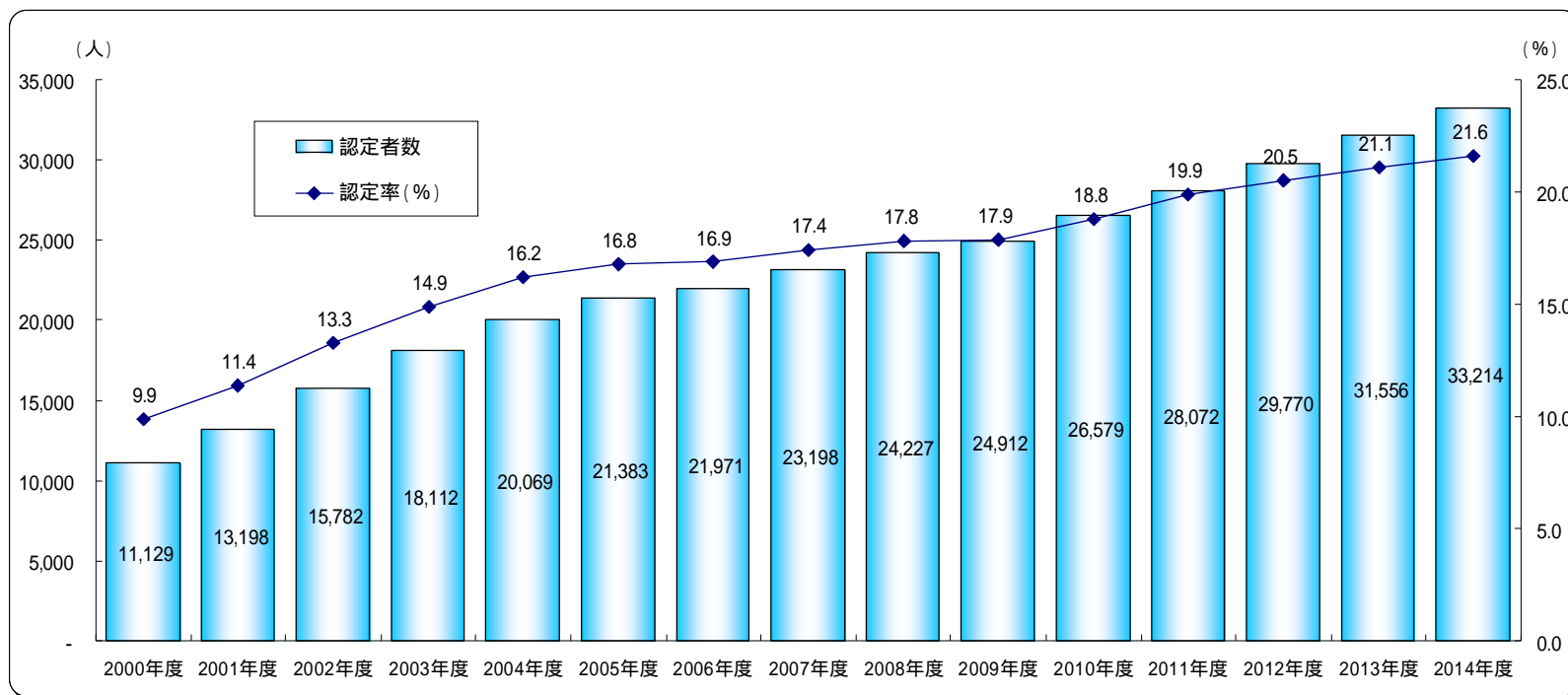
【テーマ2】高齢者

【現状】

大田区の人口全体に占める高齢者人口(65歳以上)の割合は18.4%である。高齢単身者世帯の割合は8.8%であり、23区では6番目に低い(総務省「平成17年国勢調査」)。

2005年度の要介護(要支援)認定者数は2万1,383人で2000年度に比べると約2倍に増加した。2014年には約3倍に増加すると予測されている。認定率は2005年で16.8%であるが、2014年には21.6%へと上昇する見込みである。

要介護(要支援)認定者数および認定率の推移



認定率 = 第1号被保険者の要介護(要支援)認定者 / 65歳以上人口 (%)。2006年以降の数値は推計

(資料)「第3次大田区カ以後保険事業計画(平成18~20年度)」(大田区)より作成

【テーマ2】高齢者

【現状】

介護保険施設等(入所型施設および介護付住宅)の入所定員数は2002年度の1,291人から2004年度には2,110人、2006年度には2,658人へと増加している。申し込みから入居までの待ち期間は、特別養護老人ホーム入居、優先度の高いAランクの場合で、概ね半年程度である。

「平成16年度大田区高齢者等実態調査」によれば、高齢者が希望する介護の形態としては自宅にいることを望む人が全体の6割を超えている。希望する介護者としては、配偶者(44.0%)、娘(38.1%)、ホームヘルパー等(30.2%)が上位占めた。

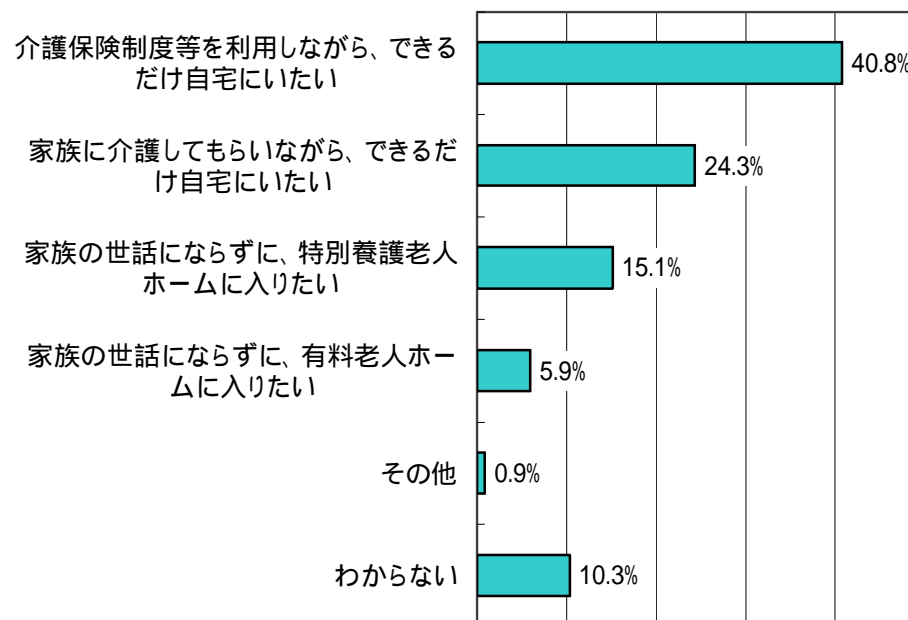
区内の介護保険施設のタイプ別定員数

		施設数	定員数
介護老人福祉施設	区立	5件	680
	その他	6件	640
介護老人保険施設	-	5件	450
介護療養型医療施設	-	5件	232
合計		21件	2,002

(注)2007年度

(資料)大田区保健福祉部高齢者事業課

希望する介護の形態



(資料)「平成16年度大田区高齢者等実態調査」

【テーマ2】高齢者

【現状】

区民意識調査によれば、高齢者対策は過去7年来、区民にとって「特に力を入れて欲しい施策」の第1位を占め続けている。

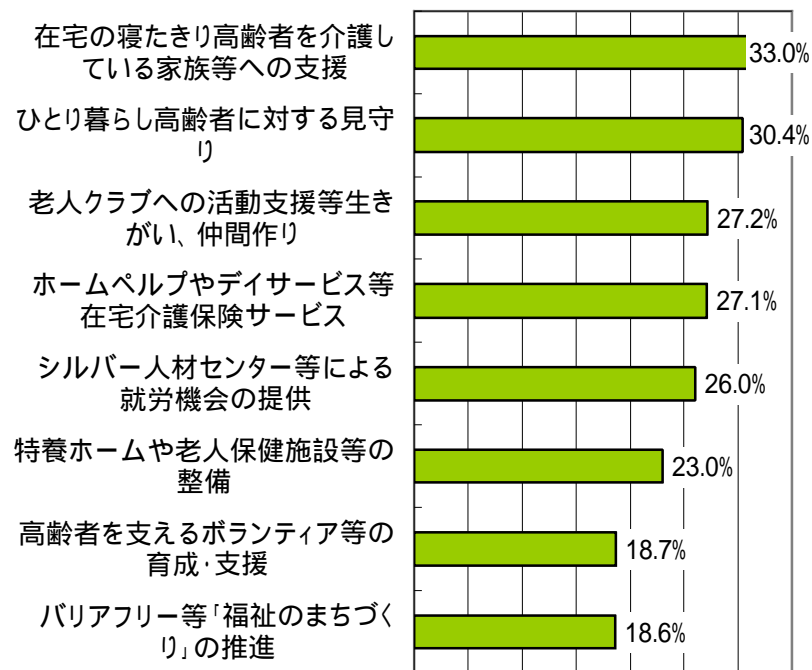
高齢者支援のための優先施策としては、介護家族への支援、高齢者に対する見守り、生きがい・仲間作りが上位を占めた。

施策要望の過年度比較

	平成18年度	平成16年度	平成14年度	平成12年度	平成11年度
1位	高齢者対策	高齢者対策	高齢者対策	高齢者対策	高齢者対策
2位	防災対策	防災対策	緑化推進	防災対策	防災対策
3位	緑化推進	緑化推進	休日診療	休日診療	清掃・リサイクルの推進
4位	公園・児童遊園の整備	休日診療	清掃・リサイクルの推進	緑化推進	緑化推進
5位	休日診療	清掃・リサイクルの推進	防災対策	清掃・リサイクルの推進	公害対策
6位	低所得世帯の援護	交通安全対策	公害対策	公害対策	道路の整備

(資料)「大田区政に関する世論調査」

高齢者支援のための優先施策



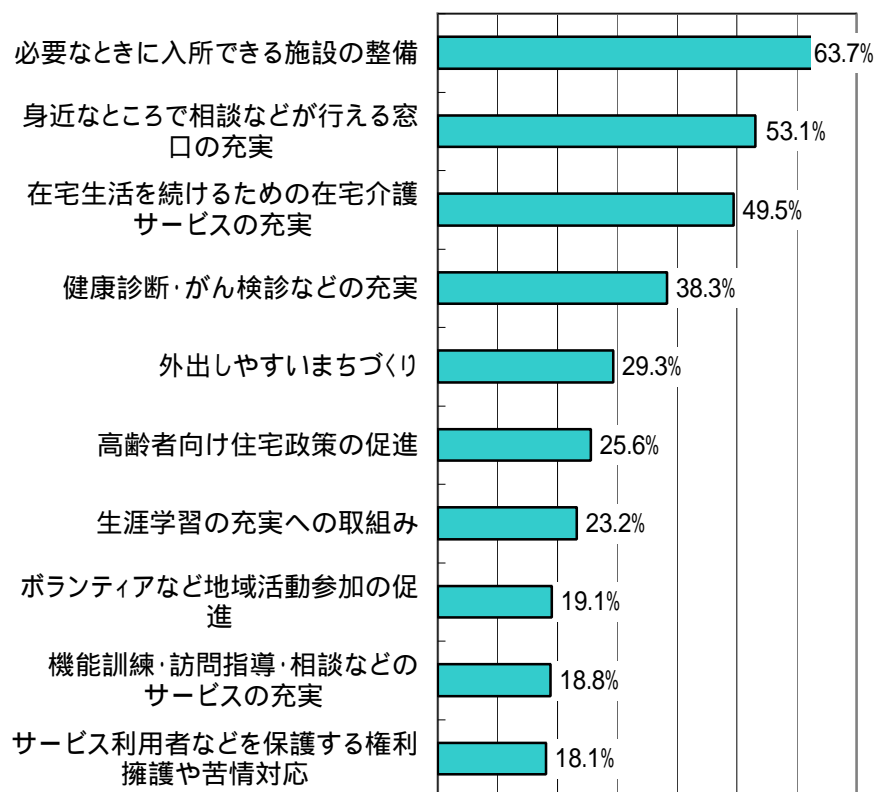
(資料)「平成18年度大田区政に対する世論調査」

【テーマ2】高齢者

【現状の施策にみる方向性】

「大田区地域保健福祉計画(平成17年度～21年度)」では、高齢者による施策ニーズと予防の重要性を踏まえて、予防介護の促進、社会参加の仕組みづくり、支えあいネットワークの促進、健康福祉サービスの推進を優先課題に掲げている。

大田区が取り組むべき高齢者施策



【優先課題に係わる計画事業】

予防介護分野

介護予防健診、介護予防マネジメント、介護予防教室、生きがい通所

社会参加の仕組みづくり分野


区民大学、寿教室、老人クラブの活性化

支えあいネットワーク分野

支えあいネットワークの整備、緊急通報システム

保険福祉サービス分野


高齢者自立支援住宅改修助成事業、特別養護老人ホームの整備、老人保健施設の整備、認知症高齢者グループホームの整備



高齢者支援において、なにを目指すか

将来のあるべきまちの姿とは

施策の方向性はどうあるべきか



【テーマ3】

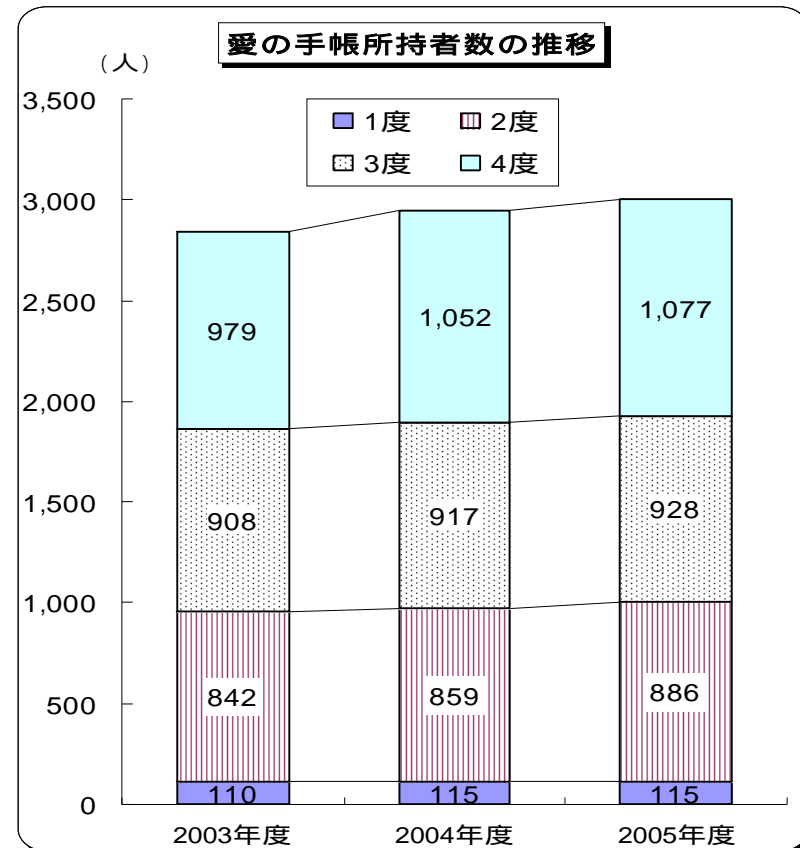
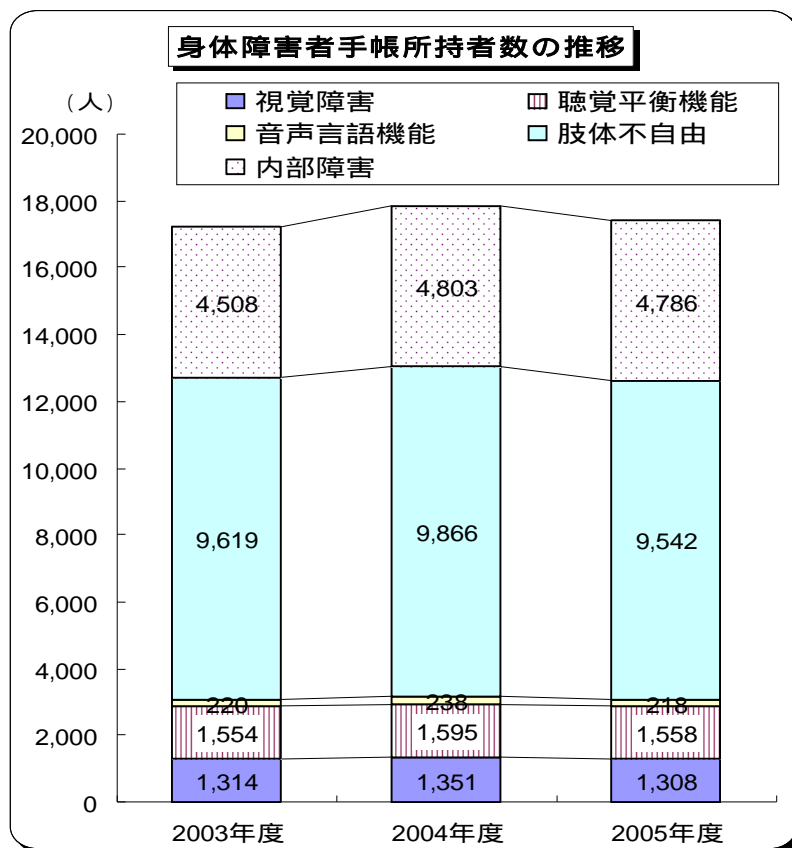
障害者が自立して暮らしていくための
方策とは？

【テーマ3】障害者

【現状】

身体障害者手帳所持者数は約1万8,000人で推移している。愛の手帳所持者数(知的障害者)は若干、増加しているものの、約3,000人で推移している。

精神障害者保健福祉手帳の交付数は、増加傾向を示しており、2005年度は886人と2003年度の552人に比べて約60%増加している。



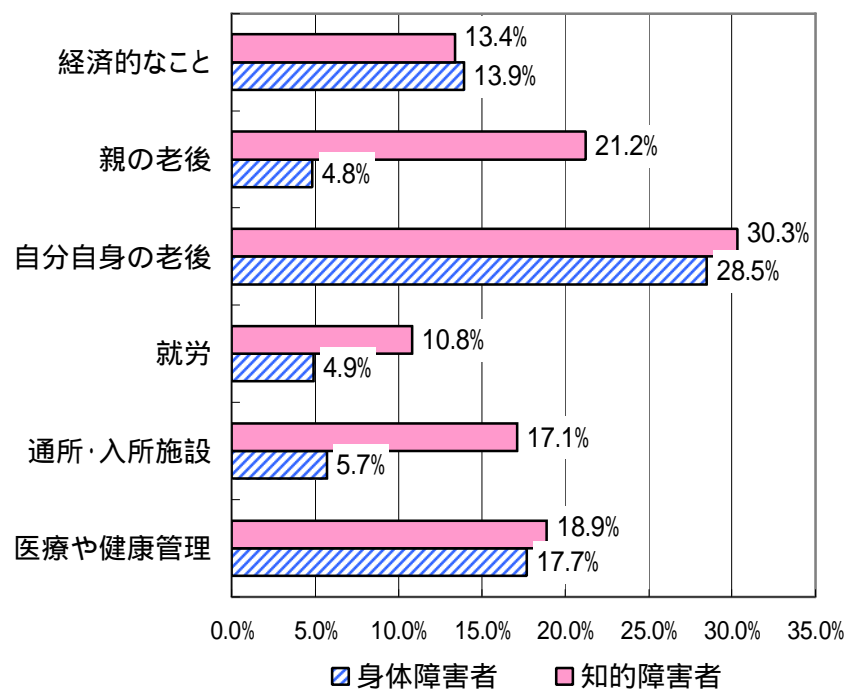
(資料)「大田区の数字」(大田区)より作成

【テーマ3】障害者

【現状】

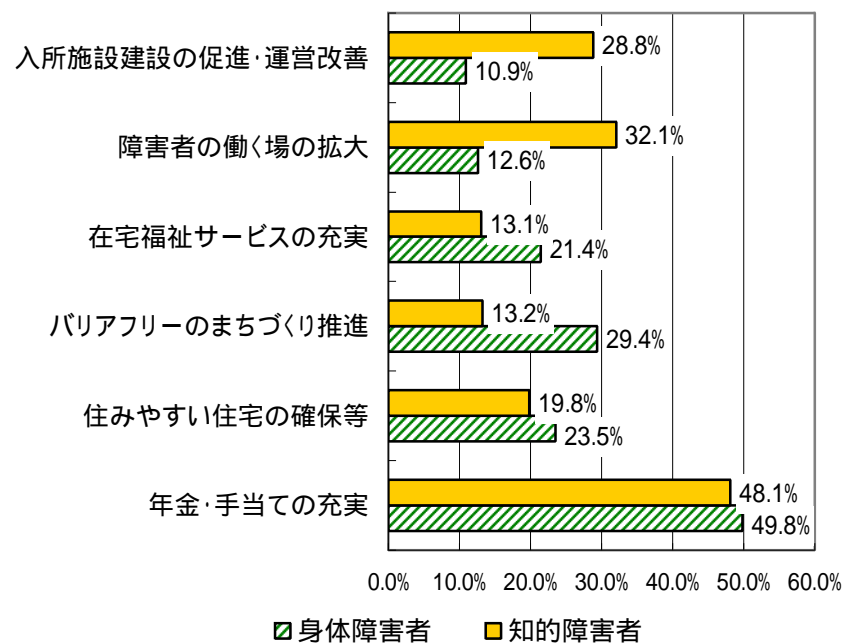
「大田区地域保健福祉計画実態調査(平成11年)」によれば、障害者が困っていること・相談したいことの第1位は「自分自身の老後」、望む保険福祉施策の第1位は「年金手当の充実」であり、老後に対する不安が大きい。

障害者が困っていること・相談したいこと



複数回答
(資料)「大田区地域保健福祉計画実施実態報告書」1999年

障害者が望む保険福祉政策



複数回答
(資料)「大田区地域保健福祉計画実施実態報告書」1999年

【テーマ3】障害者

【現状の施策にみる方向性】

『第1期大田区障害福祉計画(平成18～20年度)』は障害者自立法に基づき、障害のある人が自立した日常生活を営むことができるように、必要なサービス等を計画的に提供するために策定された。

平成23年度までに、自立の促進に向けて次のような目標を設定している。

- ・地域生活に移行する福祉施設入所者数 47人(平成17年度の入社者数467人)
- ・地域生活に移行する退院可能精神障害者数 136人
- ・一般就労に移行する福祉施設利用者数 45人(平成17年度の利用者数の1.5倍)

上記を含めて、障害者のある人の自立的な生活を支えるために、必要な支援を次のように見込んでいる。


障害者福祉サービス等の見込み量

	サービス名	平成18年度	平成23年度
訪問系	居住介護	8,247時間	10,240時間
	重度訪問介護	9,257時間	12,790時間
	行動援護	75時間	107時間
	重度障害者等包括支援	620時間	940時間
日中活動系	生活介護	0人	896人
	自立訓練(機能)	34人	34人
	自立訓練(生活)	0人	39人
	就労移行支援	0人	90人
	就労継続支援(A型)	0人	29人
	就労継続支援(B型)	0人	760人
	療養介護	6人	7人
	児童デイサービス	4人	4人
居住系	短期入所	532日	691日
	共同生活介護	60人	83人
	共同生活援助	64人	123人
	施設入所支援	0人	467人
	サービス利用計画作成	5人	108人

(注)見込み量はサービス利用計画作成が年間、その他は1カ月の利用分を示す。

地域生活支援事業の見込み量

	単位	平成18年度	平成23年度
相談支援事業	件/月	3,772	4,635
コミュニケーション支援事業			
手話通訳者等派遣事業	件/月	129	173
要約筆記者派遣事業	件/月	0	3
日常生活用具給付事業	件/月	36	745
移動支援事業	時間/月	4,044	5,435
地域活動支援事業	人/月	54	268
訪問入浴サービス事業	回/年度	2,523	2,625
更正訓練費等給付事業			
更正訓練費交付事業	人/年度	492	492
施設入所者就職支度金支援事業	人/年度	0	4
社会参加促進事業			
自動車改造費助成事業	件/年度	11	10
自動車運転免許取得費助成事業	件/年度	11	8
日中一時支援事業	日/年度	60	127
生活サポート事業	時間/年度	288	1,152



障害者支援において、なにを目指すか

将来のあるべきまちの姿とは

施策の方向性はどうあるべきか